

【科目名】 病理学概論		【担当教員】 飯岡 英和 (メールアドレス) hiioka@med.niigata-u.ac.jp (オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室で対応。
【授業区分】 専門基礎分野 (基礎医学)	【授業コード】 2-12-0290-0-1	
【開講時期】 2 年次 前期	【選択必修】 必修	
【単位数】 1 単位	【コマ数】 8 コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 病理学は疾病の成原因とその成り立ちを明らかにする学問です。医学、医療の基本となる学問ですので、医療に関わるすべての人は十分に修得すべき必須学問と考えます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 授業時にレジメを配付し、それに基づいて講義を進めます。		
【講義概要】 (目的) 医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に学ぶ。 (方法) 教科書を使用し、特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。		
【一般教育目標 (GIO)】 ・各論の重要事項を加えながら病理学を総論的に講義し、疾病の成り立ちをより広く理解できるようにする。 【行動目標 (SBO)】 ・病因によって退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常など、違った疾病を発症することを解説する。		
【教科書・リザーブドブック】 教科書；大橋健一ほか、系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進、医学書院、2015 年 (第 5 版)、¥2,400 (税別)		
【参考書】 授業内で適宜紹介します。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 筆記試験にて行います。(成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従います。)		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		100	0	0	0	0	0	0	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	100	0	0	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシ ップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営 方法	学修課題(予習・復習)	時 間 (分)
1	イントロダクション:病理学で学ぶこと、細胞組織の傷害と修復	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
2	循環障害:浮腫、充血・鬱血、出血、血栓、寒栓、虚血・梗塞、側副循環、ショック、高血圧	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
3	炎症と免疫、移植と再生治療:代謝異常のメカニズム、代謝異常で起こる病気	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
4	感染症:感染と宿主の防御機構、主な病原体と感染症、治療と予防	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
5	代謝障害:脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖尿病、その他の代謝障害	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
6	老化と死:老年症候群、加齢による変化、個体の死	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
7	先天異常と遺伝子異常:先天異常の分類、遺伝子異常の分類、診断と治療	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	
8	腫瘍:定義と分類、悪性腫瘍、発生病理、診断と治療、統計	講義	教科書、講義スライド、資料等を用いた復習	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。